

- 能登半島地震発災直後より、井戸（地下水）を代替水源として活用した七尾市を対象に、有識者が3月2日（土）に地下水活用状況調査を実施。
- 七尾市は、かつて過剰揚水により地盤沈下が発生したため地下水採取を規制しているが、断水が長期間に及ぶ中、市民や事業者が主体的に所有井戸を開放。
- 今次災害における代替水源活用状況や課題を把握し、地域の防災力向上に資する情報を発信予定。



■調査実施日 令和6年3月2日（土）

■調査メンバー

- ・大阪公立大学現代システム科学域教授 遠藤崇浩
- ・東京大学大学院工学系研究科教授 沖大幹
- ・芝浦工業大学工学部教授 平林由希子
- ・芝浦工業大学工学部特命助教 井出浄
- ・応用地質株式会社取締役副社長 五十嵐崇博
- ・埼玉県環境科学国際センター専門研究員 柿本貴志
- ・埼玉県環境科学国際センター技師 高沢麻里
- ・株式会社建設技術研究所東京本社上下水道部副参事 蛇原雅之
- ・城西大学現代政策学部准教授 飯塚智規
- ・株式会社地圏環境テクノロジー専務取締役 多田和広
- ・公益財団法人リバーフロント研究所業務執行役 内藤正彦
- ・国土交通省水資源部 中込淳、森一史 他 計15名

■現地調査結果

□井戸の利用状況

- ・民家や事業所の多くの井戸が開放され、地域で活用
- ・水質に応じて井戸を使い分けて利用（飲用、洗濯、食器洗い、トイレ等）
- ・特に給水車からの持ち運びが困難な高齢者等にとって、近所の井戸活用は有効的
- ・水道復旧後も、既存井戸を残すケースが増えるのではとの声もあり

□井戸利用上の課題、留意点

- ・夜間に取水する際の騒音で一部苦情あり
- ・井戸の脇で衣類の洗濯をする等のマナーの問題も散見
- ・かつて地盤沈下を生じた地区のため再発を懸念する声もあり
- ・飲用可否が不明の井戸は自己責任で利用

**主な調査箇所**

①	旧工場の井戸を生活用水に利用
②	民家内の井戸の横に洗濯機を設置して地域に開放
③	民家内の井戸を開放し、生活用水に利用
④	民家内の井戸を開放し、避難所のトイレにも利用
⑤	町内会が、「飲み水」、「トイレ水」の用途に応じて利用できる井戸について表示
⑥	地元の学校が新たな防災井戸を掘削・整備

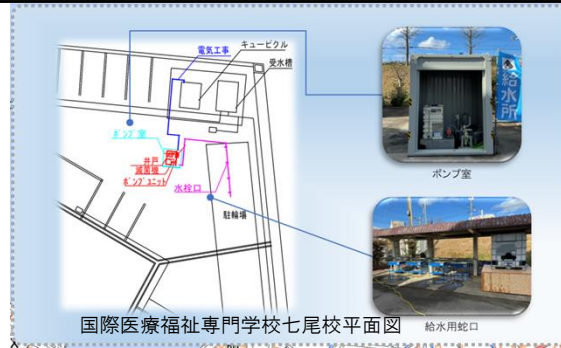


# 【参考】七尾市の専門学校に防災井戸を設置

- 令和6年能登半島地震の影響で断水が続いている石川県七尾市の国際医療福祉専門学校七尾校に防災井戸を設置
- 生活用水の確保に悩む専門学校が七尾市との協議を経て、全国さく井協会会員企業((株)日東)へ要請
- (株)日東が、地下水に関する基礎情報が少ない中、井戸掘削深さ等調査検討を含め、約10日で井戸掘削を完了
- 飲料水としての水質基準をクリアすることを確認の上、ポンプ等揚水設備工事を行い、専門学校の要請から約1ヶ月後には井戸が完成
- 断水が長期化する中、専門学校及び周辺住民の生活用水として活用
- 新設井戸は、今後、七尾市の「防災井戸」として活用される見通し

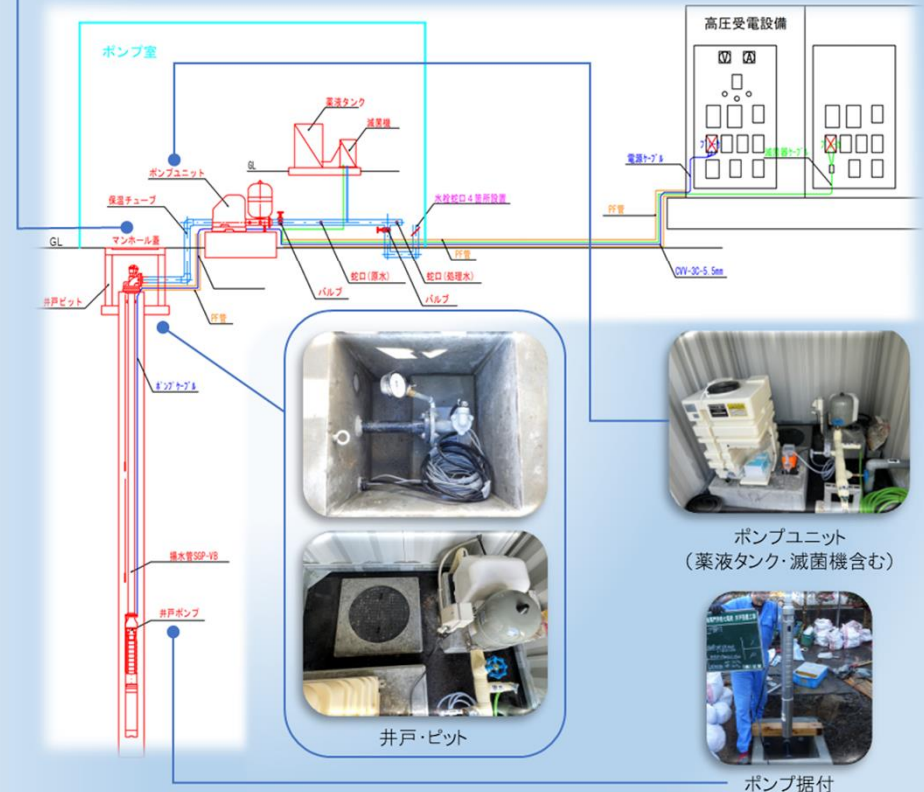
※敬称略

## 位置図



七尾駅

## 施工概要



## 経緯

- 1/1 令和6年能登半島地震(七尾市震度6強)発生し、断水、停電
- 1/9 専門学校理事長から(株)日東社長へ新設井戸工事を打診
- 1/11 (株)日東が、井戸掘削深等調査検討を開始  
⇒ [現地調査・既存資料収集分析・帯水層推定]
- 1/16 専門学校と井戸掘削会社間で、井戸掘削工事の契約締結
- 1/18 井戸工事に着手
- 1/20 井戸約50m掘削完了、地下水湧出を確認
- 1/22 揚水試験により「適正揚水量」を推定
- 1/24 水質検査のため地下水を採取
- 1/29 水質基準(13項目)を満足することを確認
- 2/9 水質基準(51項目)も満足することを確認  
揚水設備工事の契約を締結
- 2/12 揚水設備工事に着手  
⇒ [電気工事、ポンプ室設置]
- 2/13 試運転、引渡完成

## 新設防災井戸諸元

深度	49.0m
管径	150mm
掘削径	190mm
適正揚水量	120L/min
水温	14.0℃